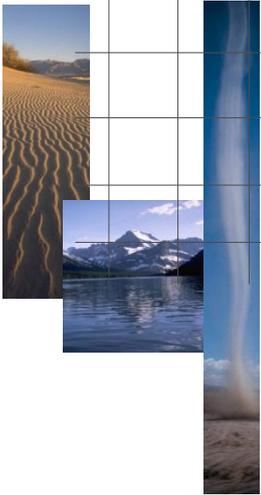


NEWS LETTER KUMAMOTO

2015. Winter Vol. 104

■発行: 一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団
 〒860-0806 熊本市中央区花畑町 4-18 熊本市国際交流会館
 ■Publisher: Kumamoto International Foundation
 4-18 hanabata-cho, chuouku, kumamoto city, 860-0806
 TEL: 096-359-2121/ FAX: 096-359-5783
 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/



新年、明けましておめでとうございます

新年快樂!(シン ニエン クァイ ルウ)

A HAPPY NEW YEAR!(ア ハッピー ニュー イヤー)

EIN FROHES NEUES JAHR!(アイン フォーエス ノイス ヤール)

새해 복 많이 받으세요 (セヘボンマニパドゥセヨ)

Bonne Année (ボヌ ナネ)

熊本市国際交流会館は昨年設立 20 周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご理解とご協力、ご愛顧の賜物と厚く御礼を申し上げます。これから 10 年、20 年先も気軽に集え、皆様に愛される会館を目指し職員一同頑張っていきたいと思ひます。

本年もさらなる皆様のご協力とご支援のほどよろしくお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



特集

国際交流会館リニューアルしました!

20 周年という節目の 2014 年、国際交流会館 1F エントランスのリニューアル、link cafe オープン、2F チャイルドルーム開設ということで、改修工事を行いました。もっと気軽に国際交流会館へ立ち寄って頂きたいという願いが込められたリニューアル。

今回はその新しくオープンした link cafe、そしてリニューアルした 1F エントランスと 2F チャイルドルームをご紹介します。

新年の挨拶・・・・・・・・・・・・・P1

リニューアル紹介・・・・・・・・・・・・・P2~4

①~link cafe・メニュー~

②~1F エントランス・2F チャイルドルーム~

世界へ羽ばたく・・・・・・・・・・・・・P5

・~留学生からの現地レポート~

ウィスコンシン大学へ留学(アメリカ) 中田ひかりさん

目次

Contents

未来のために・・・・・・・・・・・・・P6

・多発する自然災害と防災

事業団多文化共生アドバイザー 羽賀 友信さん

世界を知る~It know the world~・・・・・・P7

・「元気いっぱい!ラオスの視覚障害者の方々」

シニア海外ボランティア 藤原 正教さん

ちょっと日本語/きふプロ・・・・・・・・・・P8



気がつけば笑顔に貢献。世界と繋がるカフェをめざします。
世界の人たちの笑顔を応援したい、とフェアトレードや熊本の地産品の食材とグッズを扱い、マガジンラックにも関連本をならべていますが、それを感じさせない気軽さも大切にしています。「品質や味、デザインの良さで気に入ってもらって、フェアトレードを知るきっかけに」をモットーに商品を厳選して提供しています。



心地よい音楽が流れる明るい店内。
カウンター横には雑貨販売コーナーがございます。また、フェアトレード関連書籍や海外雑誌のバックナンバーを設置しておりますのでご自由に閲覧いただけます。

カフェスペース
テーブル：8台
客席：22脚
フリースペース
テーブル：4台
客席：14脚



窓際のお席はフリースペースとしてご利用いただけます。外にはテラス席もご用意。熊本城の桜や緑を眺めながらゆったりとした時間を過ごせます。イベント時には大きな窓を開放してテラス席と店内を行き来できるよう、開放的な空間となります。



link cafeのフェアトレードコーヒーはハンドドリップ。
ご注文頂いてから豆を挽き、一杯一杯お入れします。
提供しているメニューを次ページで詳しくご紹介いたします。



drink



link cafe のフェアトレードコーヒー

フェアトレードのコーヒー豆を使用し、ハンドドリップでお入れします。ホットコーヒー、アイスコーヒーともにテイクアウトが可能です。会議室への提供もいたしておりますので、お気軽にお問合わせください。

フェアトレードコーヒー ¥350(税込)~
アイスコーヒー ¥400(税込)

その他ドリンク…

フェアトレードティーや熊本県産の紅茶、ジンジャー・スカッシュ、みかんジュース等

food

link cafe のホットサンド



阿蘇のバジルペーストを使用したホットサンドや、フェアトレードバナナを使用した甘いホットサンドもございます。¥540(税込)~



sweets

link cafe の
ブラウニースペシャル

フェアトレードのココアを使用したブラウニー。link cafe のために作られた、まさにスペシャルなスイーツです。¥324(税込)

その他スイーツ…

熊本県産いちごスムージー、季節のスムージー等

link cafe の雑貨コーナー

世界中からフェアトレード産品が集まります。



←バングラデシュとネパールの女性たち手作りの自然素材を使用した肌にも環境にもやさしい石けん



↑熊本県産お米、米ぬか、ジャム

←熊本県産食材にこだわった無添加クッキー

季節毎のフェアトレード小物雑貨、また、熊本県産の紅茶やクッキー、ジャムなどの食品を取り扱っております。熊本と世界がlinkする、こだわりの品々です。ギフトにもぴったりの商品が多数ございます。



↑バングラデシュの麻(ジュート)を使用した手作りのアニマル・マスコット



記載しているメニュー、価格は平成 26 年 12 月現在のものです。



館内やその他様々なところに表示されている link cafe のピンクの花のロゴ(肥後ツバキをモチーフにしたもの)には親しんでいただけましたか?色調や形、サイズの違う花びらが幾重にも重なるデザインは多様な人が集まり、一つの花を咲かせることをイメージしています。実はこのロゴ、モノクロ、ブルー、グリーン、オレンジと多様な人種間の交流、つながりに広がるようにとの思いを込めたバリエーションがあるんですよ。カフェで販売しているタンブラーにそのデザインを使っています。フェアトレードコーヒーを飲みながら世界に思いをはせてみては・・・link でお待ちしています。



1F

大型のシェルフには、自由に閲覧できる海外新聞・雑誌の最新号、多言語の熊本観光パンフレット等をご用意しております。情報収集にご活用ください。



明るい雰囲気受付カウンター



大型のシェルフと link カラーのソファ



← 新たな展示スペースとして活躍している大型シェルフ

大型案内板裏面に設置した情報ボード



大型のシェルフは、展示スペースとしての活用も行っており、先日は「コロンビアと日本をつなぐ共同製作絵本 ポンポ・イン・ジャパン 挿絵展」を行いました。(平成 26 年 11 月 11 日～30 日) 今後は、市内施設のイベント情報等のインフォメーションコーナーとしての活用も予定しています。海外新聞・雑誌コーナーや展示スペース、観光インフォ等様々な顔を持ったシェルフに今後ご注目ください。

語学講師募集や生徒募集、サークル通信等の情報を掲示する<情報ボード>もリニューアルし、案内板の裏面に掲示するようになり、見やすくなりました。語学学習に、身近な国際交流に、是非ご活用ください。

2F

昨年 8 月、2 階にチャイルドルームがオープンしました。既にくらしのほんごくらぶに参加されている方のお子様や、国際交流会館に遊びに来られた方が利用をされています。中では、DVD も見られるようになっており、ディズニーやジブリなど、お子様向けのアニメも多数用意しております。気軽にお使いいただけるスペースになっておりますので、是非ご利用ください。

《利用時間：9：00～20：00（休館日を除く）》



チャイルドルーム
オープン♪

世界へ羽ばたく

当事業団での学生ボランティアやインターン活動、また、国際ボランティアワークキャンプ in ASO、グローバルワークキャンプ等に参加した学生の皆さんが世界各国へ留学しています。このページでは、その留学している学生達の、感じた事・体験した事を現地レポートとして掲載していきます。



(右から2番目が筆者)

「アメリカ留学体験記」

熊本学園大学経済学部ホスピタリティマネジメント学科3年
ウィスコンシン大学オークレア校へ留学 (アメリカ)

中田 ひかりさん

こんにちは。熊本学園大学の中田ひかりです。私は今アメリカのウィスコンシン州に留学しています。私の通っているウィスコンシン大学オークレア校は、アメリカ全土の大学の中で5番目に寒いと言われる地方にある大学で、冬はマイナス10度前後の気温が毎日続いています。また、ウィスコンシン州は、Dairy Country (酪農の国)と呼ばれるほど乳製品の種類が豊富で、特にチーズがおいしいと言われています。ほとんどのスーパーには地元の数百種類のチーズが置いてあり、ウィスコンシンならではの感じています。また、ウィスコンシンでは様々なアクティビティを体験することができます。私のここでしかできないと思った体験はたくさんありますが、その中でもクリスマスツリー農場へ行き、クリスマスツリーを自分の目で選び、のこぎりで切り、車で持ち帰るといった体験は、ウィスコンシンならではの体験だと思いました。自分の好きな匂いと枝の形の木を選び家でデコレーションできるので、クリスマスがより一層楽しくなりました。



冬のウィスコンシン州の風景

私は勉強だけではなく、そこの土地の人と関わり、文化を学ぶことも大切だと思っています。もし海外に行かれる方はショッピングや観光名所に行くだけではなく、その土地の文化を体験することをお勧めします。最後に、この記事を見てくださった皆様、応援して下さった皆様、私に留学の機会を与えて下さった方々、現地で共に過ごした仲間達に感謝したいと思います。ありがとうございました。



乗馬体験



大学構内の風景

Fair Trade Station

～フェアトレードを知ろう!～



Why Choose "FAIR TRADE"?!



I can't drink anymore.



What is "Organic Cotton"?
It's cotton grown chemical-free and is natural, healthy, and safe for the consumers, farmers, and even for the soil!



You see that corn growing by the cotton fields as well?



What's the corn doing there?
Well, that's so the bugs will eat the corn and leave the cotton alone!

作者/イラストレーター 村井健太郎氏
プロフィール
熊本市「ひごまる」ロアツシ熊本
「ロアツシくん」長崎書店第1回
La!Bunko イメージイラスト など
熊本デザイン専門学校常勤講師

未来のために

ここでは、私たちの未来を考える上でとても重要な視点である共に生きる社会、多文化共生について専門家である羽賀友信さんにシリーズでご寄稿いただいています。



筆者：羽賀 友信さん

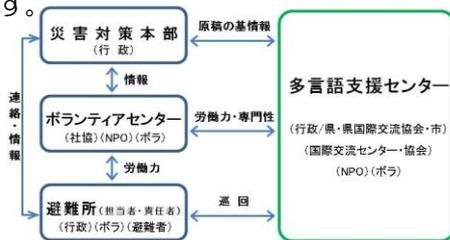
- ・長岡市国際交流センター「地球広場」センター長
- ・新潟 NGO ネットワーク顧問
- ・JICA 地球ひろば 国際協力サポーター
- ・長岡市教育委員
- ・JICA 専門家
- ※当事業団多文化共生アドバイザー

多発する自然災害と防災

この1年間を振り返ると、自然災害が多発し、その種類も多岐にわたっていました。地震、水害、台風、高潮、竜巻、土砂災害、噴火、イノシシ・猿・熊による獣害、大雪、気温上昇などの災害は、その数・量ともに増加傾向にあることは間違いありません。これに対し、減災、支援、復旧・復興などの枠組みは今まで通りでは対応することが難しくなっており、再考する必要に迫られています。

このほかにも新しいパターンとして、広域や複合的な大規模災害が起きたときには、自分の地域は被災していなくても協働型の新しいシステムが必要とされるようになってきました。これについては東南海地震や首都直下型地震の可能性を考えたとき、日頃から準備しておかなければならない時期にきていると思います。

我々の国際分野では、外国人住民支援の視点で「多言語支援センター」を立ち上げ、運営することが中心になりますが、言語のスペシャリスト集団だけで対応するには限界があり、連携システムの構築、協働が大切になってきます。特に行政の災害対応システムをよく理解した上で既存の団体と連携することが必要です。まず「災害対策本部」が主となり情報の提供が行われ、そこからの正しい情報を基に多言語支援センターで原稿を翻訳します。翻訳では、本来は足したり引いたりしてはいけませんが、外国人に特有のパスポート発行やビザの更新、帰国のための交通手段の可否などを足さなくてははいけません。また、すべての情報を翻訳することは不可能であり、優先順位を付けて選択を行った上で全国の支援を受けながら翻訳・音訳する必要があります。



発災時、市は「社会福祉協議会」(社協)と連携して「ボランティアセンター」を設置しますが、ここのボランティア活動は一般的なお手伝いが中心になり、活動時間も大体9時から16時になっています。しかし外国人住民の多くは日本人が嫌う3K(汚い、きつい、危険)の労働に従事している人が多く、またその形態も派遣であったりするため、発災後も後片付けや操業準備で日中は避難所にいることは少なく、彼らへの巡回業務も夕食後から就寝前の時間に行うことが主になります。さらに言語という特殊性が求められるため、人材の確保やネットワークの協働のために多言語支援センターを別個に立ち上げる必要が出てきます。

次に「避難所」の管理運営者との連携が必要となります。事前に外国人の存在の確認をしておき、災害対策本部から避難所へ、多言語支援センターのボランティアが巡回に入ること、どういう活動を行うかについて連絡を入れてもらう必要があります。突然訪ねていくと活動を拒否されたり、再確認という二度手間が生じるからです。避難所にはNPOやボランティアが直接訪問し、活動を希望したりしますが、正体のわからない人々を直接入れることはなく、ボランティアセンターを通し保険をかけた上で業務等のマッチングを行い派遣をすることになります。多言語支援センターも、基本的に能力が担保され顔の見える関係者にしぼってボランティアを募集し派遣していきます。

避難所での生活については、東日本大震災を通して多様な対応が求められることがわかっています。今の災害対策基本法は1959年の伊勢湾台風の教訓からスタートしていますが、現在の生活の豊かさに伴う多様性等に対応しきれっていません。避難所に入る人々の中には、要援護者と呼ばれる特別の配慮を必要とする人々がたくさんいます。しかしこれに対応するには専門性を持ったNPO等の団体との連携が大切です。

ITのスペシャリスト、母子支援の専門家、情緒障害・精神障害の専門家、身体障害の専門家、アレルギーの専門家、介護の専門家、心のケアの専門家等が連携、協働できる勉強会を日頃から実施し、役割分担を決めて勉強会が会議体に変化し、実施機関となっていくスムーズなシステム構築が求められます。これは社協ベースのボランティアセンターの外側で専門性の高い集団がサポートするという二段システムです。多言語支援センターもこのサポートチームのひとつになります。



日頃から各組織が信頼構築ができるようなシステムが絶対に必要です。特に自分の地域が被災していないのに被災者の受け入れを行うような場合、行政は通常業務の上に災害対応が増えますので、民間の協力なしには不可能です。また民が動く場合には支援金がベースとなるため、義援金との違いをPRすることも必要になってきます。さらに活動が滞らないためにはマスコミ対応が重要になり、各自が対応せずセンター長等が代表として対応することが必要です。日頃準備していないことはいざというときには実行不可能ということを心に刻み、人材の育成を図るべきです。



世界を知る
～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構 (JICA) デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

「元気いっぱい！ラオスの視覚障がい者の方々」

シニア海外ボランティア 藤原 正教 さん

(平成 24 年 9 月～平成 26 年 9 月 ラオス派遣 職種：障がい者スポーツ)

ສະບາຍດີ!(サバーイディー/ラオス語で「こんにちは」)。

私は、JICA(国際協力機構)のシニア海外ボランティアの現職参加隊員として、ラオスの教育スポーツ省に派遣されました。そこで障がい者スポーツ推進課とパラリンピック委員会の職員として、様々な障がい者のみなさんと共に過ごすことができました。今日は、その中でも、特に関わりが深かった視覚障がい者の方々のことを紹介します。

まず、ラオスの視覚障がい者の現状についてです。

ラオスの人口は現在約 650 万人。視覚障がい者の数は現在約 1 万 3 千人とのことで、約 0.2%の方が該当します。先天的な視覚障がいに加え、地雷や不発弾により視力を失う場合も少なくありません。私が働いたのはラオス唯一の盲学校で、首都ビエンチャン特別市にあり、先生 4 名、小学生から大学生までの視覚障害を持った生徒さん約 30 名が在籍しています。ここの生徒数が 30 名ほどですから、学校に通うことのできない視覚障がい者がまだたくさんいることは容易に想像できます。

それから、日本では考えられないことですが、ラオスでは盲学校の先生もほとんどの方が全盲や弱視です。生徒達のほとんどは、盲学校がある保健省リハビリセンター敷地内の宿舎で生活をし、小学生は主に盲学校で学びますが、中学生以上は近隣の学校に通っています。残念なことに、まだラオス政府には障がい者のための道路環境整備や、特別支援教育を充実させるための財政的余裕がありません。彼らは特別支援教員などなしに授業を受け、登下校時は車の往来が激しい道路の脇を、弱視生徒が全盲生徒の歩行をサポートして通っています。また、盲学校の先生方も大変です。日本のような障がい者年金制度がないことに加え、ラオスでは公務員給与が数カ月遅れることも珍しくないため、勤務後にマッサージの仕事をして収入を得ておられます(公務員の副業は特に規制されていません)。

しかし、そのような厳しい環境の中でも、いつも笑顔で、仕事や勉強、スポーツにひたむきに取り組む姿はとても輝いていました。

その中に、唯一国際試合に参加している”ゴールボール”という競技があります。アイマスクを着用し、鈴の入った重いゴム製のボールを転がして、相手ゴールを狙うというものです。適切な指導ができるラオス人コーチがいなかったため、未経験者ながら私がコーチを担当しました。インターネットの情報や映像資料で研究したり、これまで培ったスポーツ指導経験を活かしながら指導しました。同時に、英語の国際競技規則をラオス語に翻訳する作業も進め、私の帰国後に備えました。

昨年ミャンマーで開催された ASEAN - PARAGAME (アセアン障がい者大会)には、予算の都合で女子チームのみの出場でしたが、銀メダルを獲得することができました。このように国際大会でも好成績を残しているゴールボールですが、国の慢性的な財政難から思うように選手を派遣できないのが現在の悩みです。

最後に、私と視覚障がい者の方々のもう一つの繋がりについてお話しします。盲学校の先生方は日本文化や言語に関心が高く、日本語学習にも非常に熱心でした。生徒の中にも日本語学習経験者があり、更に学習を進めてもらうよう日本語教室を開催しました。実は、”日本語教師”は私の定年後の目標だったのですが、43歳で達成できたことは嬉しい経験となりました。先生方や生徒達とも仲が良く、休日には互いの家に遊びに行ったりしました。一緒に祭りに

出かけたり、お祝い事に呼んでいただいたりと、とても楽しく幸せな日々を過ごすことができました。またラオスに戻りたいと思う今日この頃です。



ゴールボールチームとの筋トレの様子
(右から 2 番目が筆者)

ちよつと Japanese Tip
日本語 動詞活用

NPO 法人日本語サポートあさ
代表 小川 ひろみ さん

日本語の教室では言葉や文化の違いでびっくりさせられたり、面白かったり、発見が多いものですが、先日のこと「友達が私の本をどろびました」と勉強を怠ける口実をいう学生がいました。

「どろぼう」→ どろばない どろびます どろぶ どろべば どろぼう
「あそぼう」→ あそばない あそびます あそぶ あそべば あそぼう

活用は同じです。自分が知っている単語「どろぼう」を「どろぼうする」意味と理解し、さらに「どろびます」と動詞としてちゃんと活用させて、おみごと！ 動詞活用合格です。日本語学習者はこうして学んでいるんだと、その造語力に感動し合格点を特別にあげました。クラス全員で大笑いして楽しい時間になりました。

きふプロ インターンシップ生、サポートセンターボランティアの皆さんが賑わうKIFのアクティビティ

インターネットではもっとたくさん紹介しています。
<http://blog.goo.ne.jp/kifblo>



はじめまして、韓国から来たノヒョジンと申します。韓国の清江文化産業大学のフードスタイリスト専攻です。日本に来る前は熊本がどんなところか全然知りませんでした。生活しながら、だんだん熊本を好きになりました。暖かい天気、美味しい料理、きれいな水と親切な人たちがいる熊本に恋に落ちました。4か月という短い期間でしたが、新しい経験を通して日本語も日本の文化もたくさん学びました。何よりも熊本を通じて世の中の見方が広がりました。インターンをするときも、私の足りない点を皆さんが理解してくれて手伝ってくださって感謝しながら働いています。熊本での思い出は生涯忘れられないです。ありがとうございました。



はじめまして。韓国のテグから来た、ジョンジンギョンです。10月から1月までの4ヶ月間、熊本でインターンをしました。国際交流会館の方々はごく当たり前の話ですが、よくしてくださってとても幸せな4ヶ月でした。その間、私が感じた日本は「配慮が本当に多い国」ということです。例えば、後の人のためにスーパーのかごが取りやすいように置いてあったり、トイレトペーパーが三角折りされていたりと本当に些細なことですがその些細な配慮のおかげで、外国人である私も日本で生活する4ヶ月間、楽に過ごすことができたと思います。私にとって熊本での4ヶ月は人生で忘れないものになりました。ありがとうございました。



はじめまして。韓国のテグから来ました。ノウンヨンと申します。今テグヨンジン専門学校で国際観光を専攻しています。3年前、大阪旅行をきっかけに日本語の勉強を始めました。日本語の勉強はすればするほど楽しくなっています。熊本は昔の歴史がまだきれいに保存されていて、その地域より自然が美しい所だと思いました。約3ヶ月間国際交流会館の link café でインターンシップさせていただいて光栄でした。会館で日本人の友達がたくさんできたし、日本語も前より向上した気がします。熊本での生活、絶対忘れられないと思います。3ヶ月間お世話になりました。ありがとうございました。

※3名は1月中旬まで国際交流会館でインターン生として活動しています。

☆平成27年度賛助会員募集！☆

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団では賛助会員を募集しています。当事業団の活動にご理解とご支援をいただくと共に、さらなる国際交流や国際協力の輪が広がることを願っています。

会員の方々には、事業団の機関誌『ニュースレターくまもと』の送付や様々な情報の提供をさせていただきます。また、当事業団主催講座の受講料会員割引特典や、link cafe コーヒー割引クーポン、国際交流会館駐車場の割引クーポン等もあります。

- ①個人会員 一口 2,000円/年(一口以上)
- ②団体会員 一口 10,000円/年(一口以上)

平成27年4月から平成28年3月までの会員期間となります。

＜入会のお申し込み・お問い合わせ＞
一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団事務局
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館
TEL:096-359-2020 FAX:096-359-5783
E-mail:ad-info@kumamoto-if.or.jp

私たちは熊本の国際交流活動を応援しています！

〔団体〕50音順(敬称略)

- ・ London Bridge International School
- ・ 阿蘇ハイランド開発株式会社
- ・ 一般社団法人熊本市駐車場公社
- ・ 学校法人 鎮西学園
- ・ 株式会社 熊本シティエフエム
- ・ 株式会社 コスギ不動産
- ・ 株式会社 ニュースカイホテル
- ・ 株式会社 まちづくり熊本
- ・ 韓日社会文化フォーラム
- ・ 九州産交ツーリズム株式会社
- ・ 熊本交通センターホテル
- ・ 九州農水株式会社
- ・ 熊本学園大学
- ・ 熊本市地域婦人会連絡協議会
- ・ 熊本市日独協会
- ・ 西本会計事務所
- ・ ホテル日航熊本

継続・新規ご加入

ありがとうございました。

(平成26年10月1日～12月31日現在にご加入いただいた皆様)
〔個人〕50音順(敬称略)

荒木 良祐	上村 真由	近藤よし子	縄田さゆり	松川 桃子
石原 林子	江嶋虎之助	坂田 正充	馬場 節子	松本 富子
一本 翠	大塚 梨絵	澤田多哉子	原口 賢一	松本 雪絵
稲葉 秀造	岡村 圭	鈴木 直美	深水 勤子	宮田 精也
位寄かのこ	荻野 憲一	田尻 智子	福島真理子	山元 智輝
岩村 克美	小野 順子	丹田 愛海	前淵 啓子	
岩村 憂子	木村 志穂	中原 麻喜	松川 尚子	



- 阿蘇くまもと空港より 車で45分
- 熊本交通センターより 徒歩3分
- 熊本市電停花畑町より 徒歩3分

from Aso-Kumamoto Airport-
45minutes by car
from Kotsu Center-3minutes walk
from "Hanabata-cho"
tram stop-3minutes walk

熊本市国際交流会館 国際交流サポートセンター
開館時間 午前9時～午後8時
多文化共生オフィス TEL:096-359-4995(直通)
休館日 第2・第4月曜日、年末年始(12月29日～1月3日)
Civic Support Center for International Exchange and Cooperation
Kumamoto City International Center
Service Hours 9:00a.m.-8:00p.m.
Multicultural affairs office Phone:096-359-4995(Dial-in)
Closed: 2nd and 4th Mondays of each month, Dec. 29th-Jan. 3rd